

天守閣：再建された天守

熊本城の天守は、「天守閣」と呼ばれる近代に再建された建物です。元の天守は、「西南戦争」として知られる 1877 年の武士の反乱の直前に焼失しました。現在の天守は、建築史家の藤岡道夫氏が古い図面や写真をもとに設計したもので、1960 年に鉄筋コンクリートで建てられました。大天守は高さ 30 メートル、地上 6 階地下 1 階建て、小天守は高さ 19 メートル、地上 4 階地下 1 階建てです。大天守は、出窓の上部を覆う丸みを帯びた切妻（唐破風）や、天守台の上に露出した白塗りの木の梁が特徴的です。小天守には、天守台の上に逆さの突起があるのが分かります。白漆喰と黒木の下見板による強いコントラストが、熊本城を象徴する特徴となっています。

